

飯舘村①-1

特に人材のサポートが必要な課題		具体的な業務内容	職種	役職	年齢層	人数
営農再開	<ul style="list-style-type: none"> □ 村では、下記のような原発事故対応のため、土地改良施設の損傷、農地の固化が発生しました。(次P参照) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 除染のため、農地の表土の剥ぎ取り ⇒当作業に用いる重機により、暗渠排水設備が損傷 ➢ 農地、住宅等で除染のため剥ぎ取った土壌を、農地に仮置き ⇒その重みで、暗渠排水施設の損傷、土壌の固化 □ 全村避難⇒農地の手入れができず雑草や雑木が繁茂しました。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 営農再開基盤整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 暗渠排水、用排水路 ● 客土整備 	● 農業土木	● 係員	● 40代から50代	● 1名
	<p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">営農再開のため、農地の基盤整備等が必要な状況ですが、農業土木に関する専門的な知見を有する職員が不足しています。</p>					

- 派遣職員の皆様には、土地改良施設の損傷及び農地の管理が出来ず原野に戻ってしまった農地を、営農が再開出来る農地に戻すための一連の基盤整備を実施していただく中で、基盤整備等に関する幅広い知識と希少な経験を積むことができるものと思います。

営農再開状況 (R6. 7時点)

再開割合 (B/A)	休止面積 (ha) (H23.12) (A)	再開面積 (ha) (R6.7) (B)
32. 7%	2, 330	762

住民の居住人口 (R6. 7時点)

居住率 (B/A)	住基人口 (A)	居住人口 (B)
33%	4, 584	1, 513

- H23に、全村避難。
- H29.3.31に、帰還困難区域を除き、避難指示解除。

飯舘村①-2

【震災前の豊かな農地】



【震災後の農地の姿】



※除染土の仮置場として利用された、農地に置かれたフレコンバック



飯舘村①-3

【営農再開の圃場(あぶくまもち)】

② 農地の削り取り



提供：農林水産省

「除染等の措置に係るガイドライン(環境省)」より抜粋



飯舘村②-1

特に人材のサポートが必要な課題		具体的な業務内容	職種	役職	年齢層	人数
保育充実	1. 村では、震災後、居住人口が急減しました。 ↓ 子育て支援の充実のための支援施策を講じることで、帰村者の促進及び子育て世代を中心とした移住定住増が必要な状況です。 ↓ そのため、0歳から中学生までの一貫した教育の実施により、子育て世代にとっての魅力アップを図っています。	□ 認定こども園での園児保育 H22国勢調査 (A) 居住人口 (R6.7.1) (B) 6,209 → 1,513	● 保育士	● 係員	● 特に要望なし	● 1名
	2. 認定こども園の保育の充実のため、0歳からの保育を担う保育士の確保が必要ですが、保育士が不足しています。					

- 派遣職員の皆様は、自然豊かな環境の中で、少人数の0歳から中学生までの一貫した教育に関する、希少で豊かな経験を積んでいただくことができるものと思います。

飯舘村②-2

【認定こども園での園児保育】



飯舘村③-1

特に人材のサポートが必要な課題

- 震災前の特産品だった、**飯舘牛飼育、花き(トルコギキョウなど)栽培が、ようやく復活しました。**(次ページを参照ください)
- 村内で農業、畜産業を再開する農家の姿を、
①村外で生活する住民、②村へ移住し新規就農を検討する方々に対して、タイムリーに発信し、
新たな営農再開を促進したいと考えています。
- また、村全体の復興創生の動きを発信し続けることで、
新たな飯舘村の軌跡を理解し、**村民の帰村促進と移住者増加**を図りたいと考えています。
- そのため、飯舘牛、花きの復活を全国にPRし、再びブランド化することが必要ですが、IT(SNS等)を活用した広報の知見を有する職員が不足しています。**

復興創生発信

具体的な業務内容
□ ICT(SNS)を活用した、復興創生発信事業

職種
● 一般事務(ICT)

役職
● 係員

年齢層
● 特に要望なし

人数
● 1名

住民の居住人口 (R6.7時点)

居住率(B/A)	住基人口(A)	居住人口(B)
33%	4,584	1,513

- H23に、全村避難。
- H29.3.31に、帰還困難区域を除き、避難指示解除。
- R5.5.1に、帰還困難区域の一部を除き、特定復興再生拠点区域及び長泥曲田公園で避難指示解除。

- 派遣職員の皆様は、どの自治体でも課題となっている、SNS等を通じた「わがまちの全国へのPR」について、震災からの復興のPRという当村の切実な課題への対応のサポートをしていただくことで、豊かな経験を積んでいただくことができるものと存じます。

飯舘村③-2

【花き栽培の再開】



【葉物試験栽培】



【飯舘牛の復活に向けた取組み】



飯舘村④-1

特に人材のサポートが必要な課題

- 震災以前は、各地域に小売り商店が点在し、地域住民の生活必需品を購入できましたが、震災後に全店舗が廃業もしくは村外への店舗移動となりました。住民の日常生活を支える商業者の再開・企業誘致の支援と共に工業者支援による「働く場」の維持・創出が必要な状況です。
- 村内で商業店舗を再開・新規店舗を構える企業の支援を行います。
- 村内の工業者支援と共に、企業誘致に積極的に取り組みます。
村の商工業が活性化することにより、新たな雇用が生まれ日常生活の利便性も高まることから、帰村者の増につながるものと考えます。また、起業する方々の支援を並行することにより、移住者の増につながるものと考えています。
- そのため、上記支援を重点的に展開することが必要ですが、**商工業者を支援する職員が不足しています。**

商工業者支援

具体的な業務内容

- 商工業者支援事業
- 企業誘致、立地支援
- 産業団地整備事業

職種

- 一般事務（商工業者支援）

役職

- 係員

年齢層

- 特に要望なし

人数

- 1名

村内商工業者数 (R6. 7時点)

比較(B/A)	震災時(A)	現在(B)
71.3%	230	164

● 当村は、「将来の担い手」を増やすべく様々な施策を展開しております。派遣職員の皆様には、地方(田舎)の自治体で課題となっている、担い手の不足という切実な課題への対応のサポートをしていただくことで、豊かな経験を積んでいただくことができるものと存じます。復興創生に向けた新たな「担い手」の一員となっていただければと考えております。

- 小売り商店を中心に減少。
- 村内での食糧品、日常生活用品を購入する商業施設がなく帰村者に生活不便感。
- R6事業にて、商業施設の着工開始。

飯舘村④-2

【商業施設整備状況】



R6.7.24現在

【商品券を活用した支援】

